



**市民参加のモニタリングで**

**見えてきた赤谷の森**

赤谷プロジェクト（以下「プロジェクト」とします。）では、様々なモニタリング調査活動をして10年目になります。

こうした調査が続けられたことは専門家の先生や学生の皆さんに協力して頂いたことと、サポーターとして参加して頂いた一般市民の皆さんの力によるものです。

特にホンドテンモニタリング（以下「テンモニ」とします。）は、サポーターが中心となり、毎月の「赤谷の日」等で、林道を歩いてテンの糞のサンプリングをしてくれました。今回はその成果で見えてきた赤谷の森を紹介いたします。



冬のホンドテン

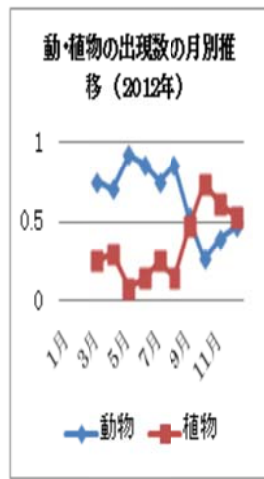
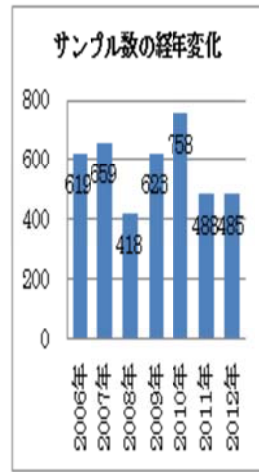
**赤谷の森のテン個体数は一定**

テンのサンプル（糞）の採取は調

査開始以来4000個を超えています。

このサンプルは、応用生態技術研究所（所長 足立高行）へ送付して解析して頂いています。

解析結果とテンの習性からみると、赤谷の森は年間を通じて餌環境が安定しており、動物食が中心です。動物類では、ネズミと昆虫類が優先し



ています。

植物類では、ヤマグワ、ウワミズザクラ、サルナシ、ツルウメモドキなどが目立ちますが、中でもサルナシは主要な餌植物です。テンは特定のテリトリーを持たず森林を移動しています。

これは糞のDNAを解析してわかりますが、毎年の調査ルート毎のサンプリング数をみると、サンプル数が一定していることから、個

体数の変動は見られないことがわかりました。

**わかりやすい調査マニュアル**

サンプリングは調査員による違いが出ないように足立所長が作成したマニュアルを基にテンモニを行うことにしています。

今年は、サポーターの意見も取り入れて、より正確かつ簡易な方法となるようマニュアルを更新しました。マニュアルには採取用具、採取方法、記録の取り方がわかりやすく記載されています。

11月の赤谷の日では、ビジター向けのテンモニ体験を行ったところ、「テンモニをしながら自然環境を見ると、今まで気が付かなかった森林の変化がわかるなど、思っていた以上に参考になって楽しかった」という感想も寄せられ、今後テンモニ仲間が増えることを期待しています。



テンモニの調査に使う道具

**テンが安心して暮らせる環境**

テンが安心して暮らせる森林環境は、餌となる動植物が安定して生息・生育している証です。

もし、モニタリングデータに大きな変動があった場合は、その森林環境に何らかの変化が発生していることが予想されます。

こうしたことから、テンの生息環境が保全されることは、森やそこに生息、生育する多くの動植物が保全されていることを意味しており、このことが生物多様性の評価につながるのではないかと考察しています。

この活動についての詳細は、平成26年2月12日に開催される平成25年度森林・林業技術等発表会に森林ふれあい部門で発表します。是非傍聴しに来て下さい。



林道上のサンプルを採取するサポーター